

2023年8月2日

アサヒ飲料株式会社
阪神電気鉄道株式会社

阪神甲子園球場で初のボトル to ボトルの取り組みを開始 8月6日から8月22日までの期間中に回収したPETボトルを水平リサイクル

アサヒ飲料株式会社(本社 東京、社長 米女 太一)は、阪神電気鉄道株式会社(本社:大阪市福島区、社長:久須 勇介)と共同で、8月6日~8月22日の期間に阪神甲子園球場(所在地 兵庫県西宮市)で回収されるPETボトルの水平リサイクル(ボトル to ボトル)に取り組みます。阪神甲子園球場でボトル to ボトルの取り組みを実施するのは初めてです。

阪神甲子園球場は、2021年12月に環境保全プロジェクト『KOSHIEN “eco” Challenge』※を宣言し、太陽光発電、雨水・井戸水の利用、プラスチックカップのリサイクル、ナイター照明のLED化活動などの取り組みにより環境負荷低減を目指しています。

アサヒ飲料は、この「KOSHIEN“eco”Challenge」に賛同し、2021年からオフィシャルエコパートナーとして阪神甲子園球場のPETボトル回収・リサイクル率向上に向けた取り組みをサポートしています。

本年は環境負荷低減の取り組みの一環として、新たに球場内で回収されたPETボトルを再びPETボトルとして再生利用するボトル to ボトルの取り組みを推進します。

対象期間中、球場におけるPETボトルの分別回収の啓発を強化するなど、来場されるお客さまにご協力いただきながら、さらなるPETボトルの回収・リサイクル率の向上に向けた取り組みを展開します。

回収したPETボトルは中間処理業者が容器毎に分別してバール化・フレーク化した後に、リサイクラーがリサイクルPET原料に再生して当社商品に再利用する予定で、その一部は阪神甲子園球場内でも販売されます。

将来的には、阪神甲子園球場内で回収・再生したPETボトルは全量、阪神甲子園球場内で販売されるという「資源の地産地消」にも両社で取り組んでいく予定です。



アサヒ飲料は「社会の新たな価値を創造し、我々の『つなげる力』で発展させ、いちばん信頼される企業となる」というビジョン、そして「100年のワクワクと笑顔を。」という社会との約束を掲げ、「健康」「環境」「地域共創」をテーマとした取り組みを通して社会に貢献することを目指しています。

本取り組みを通して、阪神電気鉄道株式会社とともにペットボトルの水平リサイクルの推進による持続可能な社会の実現を目指していきます。

ご参考:

ボトルtoボトルとは

飲み終わった PETボトルを新たな資源に再生するための取り組みとして、使用済みPETボトルをPET樹脂原料として再資源化し、もう一度PETボトルとして生まれ変わらせること。